

退公連耶麻支部会報**No.54**

発行・・・支部長 矢部 宥一

発行所・・・耶麻支部広報

<巻頭言>**～コロナ禍前の活動を取り戻しながら、退公連のさらなる発展を願って～**

支部長 矢部 宥一

会員の皆様、過去に例のないほどの暑い夏を無事やり過ごすことができたでしょうか。物価が上がれば、気温も上がり続け、今年は、暑さに強いはずの自分も、ぐったりして何も出来ない日が続きました。例年なら出来ていた夏の草刈りも後回しになり、暑さと年齢には勝てないと自分を納得させています。

さて、私たちの活動を抑えていたコロナ感染症が第5類になり、活動も少しずつ元に戻りつつあります。3年間中止になっていた年金研修会が今年は開催され、耶麻支部からは7名の会員に参加していただきました。第1部の県本部の秋山時夫年金部長さんから「年金制度の仕組みと公的年金制度の長期的課題」の内容で、急速に進行する少子高齢化において制度が持続できるかという講話をいただき、興味深く聞くことが出来ました。プロジェクターを初めて使ったということで、大きな画面を見ながらの講話は、私にもよくわかる内容でした。

第2部は会津連絡協議会成田正良会長さん（北会津支部長・会津若松市地域教育コーディネーター）の「じんせい100年時代 楽しく生きる ～時の流れは歌とともに～」という講話で、退公連の歴史を振り返りながら、当時の流行した歌を会場のみんなで歌いました。久しぶりに楽しさと元気ももらい、少し若返った気持ちになりました。

ところで、ここ数年間のコロナ感染症の拡大による活動停止は、退公連にとっても取り戻せないほどの大きな損失がありました。会員が減少していること、組織が高齢化していることにより、人が集まらない、集められない現実が日常化しています。役員の人たちは、この状態にたいへん苦勞しております。

先日、お盆で帰省した親戚の女性に久しぶりに出会いました。その女性が私を見て「おじいさんにそっくりになったね。」と会うなり言い出しました。そういえばこの前、村の先輩からも言われたことを思い出して、自分も高齢になったんだと改めて思いました。父は100歳まで生きたので自分もあやかりたいとは思いますが、あんまりうれしくない気持ちもあります

自分の高齢化もあり、若い人が退公連の活動を理解し、数多く加入され、活動を担って行くようになることを夢見ています。程遠い現状もわかりますが、退公連の若い人たちが取り組んでいけるようにするために、少しずつできることからやっていきたいと思えます。今年も会員皆様のご協力をお願いいたします。

「絵手紙を描く会に参加して」

赤城 みい子



退職公務員新聞7月号と共に届いた、絵手紙をご覧になりましたか？初夏のさわやかさや微風の涼しさなどを感じていただけただけでしょうか？

耶麻支部女性部の活動として、7月6日に厚生会館にて、「絵手紙を描く会」が開かれました。私は3回目の参加です。例年10名程度参加されますが、今年は当日、家事都合での欠席が2名おられ、8名でスタートしました。

私は毎回手ぶらでの参加ですが、会場にはテーブルや椅子だけでなく、水彩絵の具、クレヨン、筆、水入れ、パレット代わりのプラ皿と、飲み物やお菓子が準備されていました。

まず、中央のテーブルから、五十嵐先生と高橋先生が描かれた、数種類の夏の花の葉書を選びます。アジサイ、フヨウ、アヤメなど、どの絵も素敵で迷ってしまいました。

次に、絵の具をプラ皿に出し、水で薄めながら彩色していきます。水加減や筆のタッチが1枚1枚違ってくるので、だんだん楽しくなってきます。でも、全会員分118枚を彩色するのは、大変な作業でした。休憩を取りながら、11時頃彩色が終わりました。

その次に、乾いた葉書から宛名とメッセージ書きに移りました。今年度から「退公連女性部」は判子が押してあり、少し作業量が少なくなりましたが、メッセージを考えるのは大変です。でも、8名皆で頑張り、1時間位で全会員分書き終えました。終了予定時刻をちょっとオーバーしましたが、水彩道具や机、椅子、会場の後片付けも終わりました。「やったー」「皆で協力できた！」という達成感は、素晴らしいものでした。

また、閉会後に別会場での昼食会にも参加しました。皆様の近況や愉快的な昔話など、コロナ禍を忘れ、心がほっこりしました。

絵手紙の彩色も、メッセージ書きも、楽しい作業です。まだ参加したことのない会員の皆様、来年は、是非一緒に参加しましょう。

楽しかった「絵手紙を描く会」

事務局長 青山 邦夫



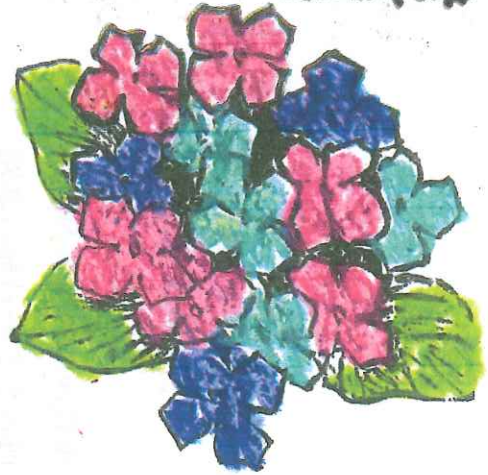
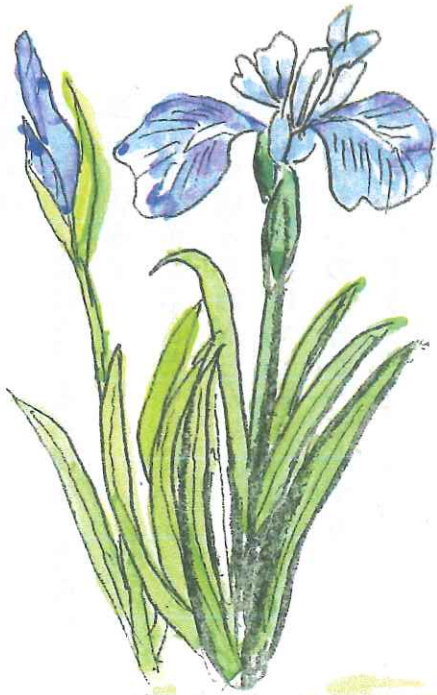
私は勿論、女性部会員ではないのですが、今回は女性部の会員のみなさんに混ぜてもらい、事務局として参加しました。佐藤敏子女性部長さんをはじめ、私の他の7名の参加者の方はさすがに手慣れた様子で、一連のきめ細かな絵手紙作りを、時々冗談などを交えながら、和気あいあいと進めていきました。

何でもそうですが、実際に参加して体験してみても初めて分かることがたくさんあり、今回の絵手紙作りでは、入念な準備ときめ細かな作業、そして先生方の「さすが！」と思わせる筆使いで、次々と鮮やかに仕上がっていきました。

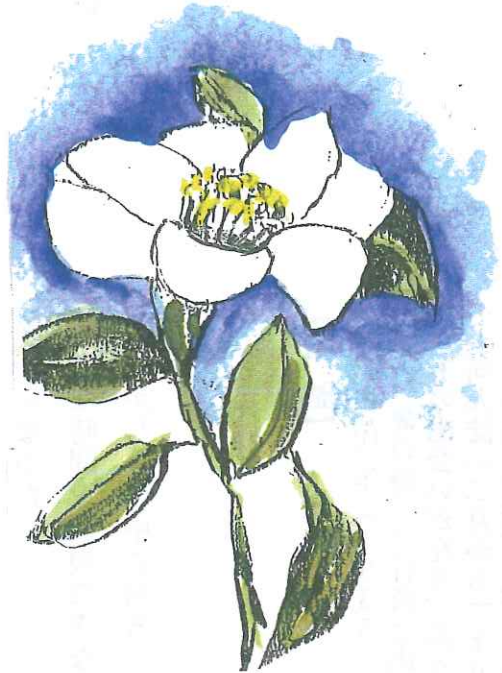
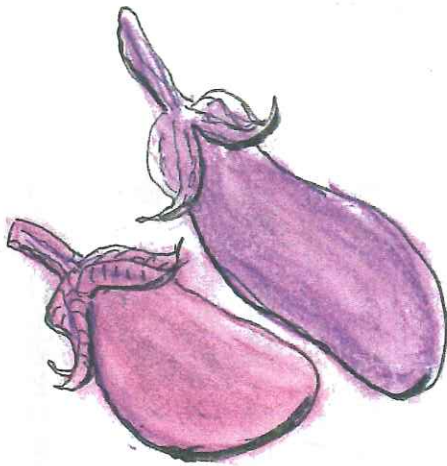
あまりお役に立てなかった私ではありますが、最後は女性部のみなさんに囲まれながら、緊張しながら楽しく昼食をいただきました。

〈第7回絵手紙を描く会〉

7.6 (木) 厚生会館 8名



あなたには、どのお手紙が届きましたか。



女性部のみなさんからの素敵なお暑中見舞い



(タイツツ草)
耶麻退公達・女性部



耶麻退公達・女性部

<文芸コーナー>

独りの独り言

安部 一之

何時もは

あまり声を掛けたことも無かったのに

独りで居ると

何故か誰かと話したくって

何処に居るかわからない

誰かに声を掛けてしまう

誰も居ないのが分かっている

そうしてしまう

言葉が在るのに

吐き出すことの無いもどかしさ

息苦しさのために

安易に誰でもいいと思ってしまう

人間のエゴと言えはそうかも知れない

でも

そこが平常なのかと

この頃思う時間の中に在る

詩を書く空間

安部 一之

深閑とした秒間に

冷えた日本酒と付き合っている

強い訳ではない

嫌いではない

何時も不思議な時間の中に居た

もう少しと促されて

今夜はやけに寂しい

雨音か風か

何かが通り過ぎた

静かになった

こんな時間を表現できない

もどかしさの中に居る

【略歴】

昭和10年(1935)東京板橋中宿生。

17歳の時、二行詩と出会い、同人となる。その後、現代詩手帳との出会いが在り、益々詩にのめり込む。昭和42年(1967)

同人誌「二月から」を立ち上げる。

その後、詩誌「北方」発足に参加。現在、所属なし。

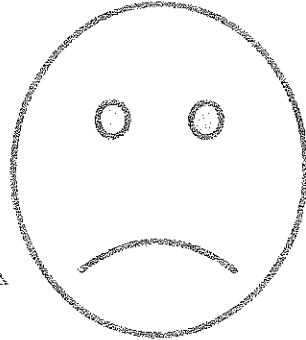
■ 運転免許の自主返納にはいろいろな意見があるようです

家族には「免許返納した方がいよいよ」と言われているし…

車がないと、買い物にも通院にも、遊びに行くにも困るなあ、…

車の運転に自信もなくなったし、運転する必要もないし…、運転免許、返納すべきなのかなあ…

今までは自分で運転して外出する機会が多かったけど、運転しなくなると友達訪問や趣味・サークルも行き難くなるなあ…生活に張りを失い、引き籠りがちになりそうだなあ



今までは車でどこへでも出かけていたが乗らなくなると家に引きこもりがちになり、生活が退屈になりそうだなあ…。それでもだれかに迷惑をかけることを考えるとやっぱり『返納するのが一番』なのかなあ

どうします 運転免許の自主返納

■ 運転免許の自主返納についての講話会を行います

1. 講話会実施趣旨

- 運転免許自主返納制度の趣旨や意義、その実情等を理解し、実際に手続きをするにあたっての注意事項や配慮事項等を知り、悔いを残すことなく円滑に進めることが出来るようにする。
- 運転免許を自主返納後の生活不安への市としての具体的支援策等について知る

2. 期 日 令和 5年10月 4日(水) 15:00~

3. 場 所 喜多方市厚生会館 第二研修室

4. 講 師 喜多方警察署交通課 署 員 様
喜多方市役所社会福祉課 笹川真紀 様

5. 日 程

- 15:00 ~ 15:10 講師紹介
- 15:10 ~ 15:50 講話<Ⅰ>運転免許自主返納制度
- 16:00 ~ 16:40 講話<Ⅱ>運転免許自主返納後の市の生活支援策
- 16:50 ~ 閉 会

6. 備 考

(1) 講話会は<Ⅰ>と<Ⅱ>に分けて行います。

<Ⅰ>は「運転免許自主返納制度」、

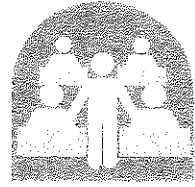
<Ⅱ>は「運転免許自主返納後の市の生活支援策」について、です

(2) 本講話会に就いて不明なことや疑問等がありましたら、下記までご連絡ください

大堀 … 自宅「23-5480」、携帯「080-1654-3085」

「女性部研修会に参加して」

事務局長 青山 邦夫



8月20日（日）西会津中学校で開催された「退公連女性部研修会」に参加した。

朝から暑さの厳しい日だったが、多目的ホールは冷房が利いていて、暑がりの私も心地よく参加できた。西会津支部の担当で、約60名の会員が参加し、私は耶麻地区の事務局長でもあるので、矢部支部長とともに男性ながら参加した。西会津支部の男性会員の多大なる協力のおかげで、朝からいいふんい気で研修が進められた。半日研修のわりには、内容がぎっしりと詰められており、「人口減少時代の地方社会」という講演と、いわゆる病弱化や虚弱化予防のフレイル予防の実技、そして合唱の披露があった。講演の講師は、タイトルを見て、「聞いたことのある名前だなあ」と思っていたら何と矢部支部長の息子さんであり、熱情あふれる話し口で、西会津の若きリーダーという感じがした。その中で何度も出て来た「奥川」の人々の写真や風景から、二十代に勤務していた奥川小時代を思い出し懐かしさを感じた。

そして、健康づくり「さすけねえ輪」の取り組みのひとつである「かかと落とし」。

恥ずかしながら「かかと落とし」と聞くと私はプロレスの技のひとつとしてしか認識していなかったので、新鮮な健康増進法だった。

最後に合唱団「コールメイ」の発表。

聴いていて、心が洗われるような、そして涙が出てくるような、そんな感動を覚えた。

とても有意義な一日になった。

編集後記

広報副部長 青山 邦夫

連日、猛烈な暑さとか危険な暑さとかという警告が画面から流される中、いかがお過ごしでしたか。その反面、「4年ぶり」という言葉が目立つようになり、退公連の活動もいくつか4年前に戻っているものもあります。

矢部支部長の巻頭言には、「年金研修会」の内容が要約されていますし、赤城みい子先生は「絵手紙を描く会」の細かな作業の様子や終了後の懇親の様子を述べられています。

そして、長い間の懸案だった「文芸コーナー」の設置につきましては、安部一之先生が今までの作品と近年の作品から、二点を選んで掲載して下さり、会報がより充実したものになりました。これを機会に、会員の皆様方には、自主的な投稿や文芸コーナーへの出品をお願いしますとともに、今回ペンを執ってくださいました会員の方々に、厚く御礼申し上げます。